INTERVIEW

松前町立松前病院 院長
八木田一雄 先生

地域に合わせた，病院づくりを考える

聞き手：山田隆司　地域医療研究所長

全科診療医の病院として

山田隆司（聞き手）　今日は松前町立松前病院に院長の八木田一雄先生をお訪ねしました．先生は昨年「やぶ医者大賞」を受賞されました，まずはおめでとうございます．この病院は以前から地域医療を志す研修医が大勢集まっていましたし，現在山本和利先生が病院の事業管理者に就任されているということもあり，病院のお話も合わせて伺えればと思います．

まず先生の経歴から紹介していただけますか．

八木田一雄　私は1995年の自治医科大学卒業で青森県18期生になります．卒後１，２年目は青森県立中央病院にて２年間のローテート初期研修を行いまして，卒後３，４年目は県南にある町立田子病院に赴任致しました．同院では自治医大の大先輩である木村雅章院長と葛西智徳副院長との3人体制で，外来・病棟診療，救急外来，訪問診療，介護施設往診，上下部内視鏡検査，気管支鏡検査，地域包括ケア，レセプトの評価などなど，たくさんのことを一から教えていただきました．卒後５～７年目までの３年間は，津軽半島にある当時人口3,000人の市浦村唯一の国保市浦診療所（無床）に赴任して一人診療所勤務を経験致しました．当時はまだやる気に満ち溢れておりましたので在宅診療や時間外診療も積極的に取り組んで頑張って参りましたが，一方で一人医師体制の限界を痛感させられることも多々ありました．

山田　3,000人で医師１人はちょっときついですね．

八木田　当時は若さで何とかカバーしていたと思います．また，ちょうどそのころ後期研修を選択する時期でもありまして，卒後８年目は「総合診療」の研修をと考えておりましたので，諸先輩方に相談致しましたところ，六ヶ所村国保尾駮診療所（当時）の松岡史彦先生から「札幌医科大学で自治医大１期生の山本先生が地域医療総合医学講座（総合診療科）の教授をされているので見学をしてきたらどうか」との助言をいただいて見学に伺いました．同教室は1999年に創設されたばかりの新しい教室で，山本教授のほか，後に松前町立松前病院（以下，松前病院）の院長となる木村眞司先生，自治医大8期生の宮田靖志先生，川畑秀伸先生の計４名の先生と初期研修医数名が在籍しており，アカデミックでとても精力的に活動されている印象を受けましたので，卒後８年目は後期研修医枠の研究生として１年間お世話になりました．卒後９年目は再び青森県内の町立田子病院に赴任し，当時は新医師臨床研修制度が開始された時期でありましたので，地域保健・医療研修の２年目初期研修医を受け入れて現場での地域医療教育にも携わりました．９年間の義務年限終了後，卒後10，11年目まで同院で勤務した後，再び札幌医科大学地域医療総合医学講座へ助教として赴任し，附属病院総合診療科外来，道内医療機関の診療支援，卒前教育に携わりましたが，地域医療の現場での臨床に対する思いが捨てきれず，２年後の2008年に派遣助教という形で当時木村先生が院長をされていた松前病院に赴任致しました．

それまでの松前病院は大学医局からの専門医派遣による常勤医で構成されておりましたが，さまざまな経緯から私が赴任した時には専門医は小児科医１名のみで，他は私を含めた総合診療医３名と北海道家庭医療学センター所属の後期研修医２名の総合診療系医師５名で計６名体制でした．外科系医師が不在で全身麻酔手術はできない状況にありましたので，全身麻酔手術を要する患者さんは体制の整備された函館市内の後方病院に紹介して対応していただくこととし，当院では内科，外科，整形外科外来，救急，時に小児科を総合診療系医師が担当し，当時は「総合診療医」という言葉に馴染みがなかったこと，内科系と外科系の診療を限られた医師で対応する必要がありましたので，町民向けではありましたが「全科診療医」と銘打って総合診療にあたることと致しました．

院長として新たな出発

八木田　それからはさまざまな創意工夫が功を奏して幸い病院経営も安定しまして，2008年から2018年までの11年間は何とか黒字を計上することができて，2018年に自治体立優良病院会長表彰を，翌2019年に自治体立優良病院総務大臣表彰を受賞することができました．

山田　自治体病院というと以前はどこも大学からの医局派遣に頼っていたところがあるので，臨床研修制度が始まったころには派遣医師が引き上げとなった事例が相次ぎました．そういう中に